校長室通信

南小国町立南小国中学校

令和２年 １月 17 日（金） No34
文責　狭間卓史

次へのスタート

【　感謝・挑戦　】

今月１０日（金）、本町主催の立志式に二年生が参加しました。立志式は阿蘇郡市内どの学校でも取り組んでいることですが、私の知る限りでは学校主催の実施であり、町を挙げての取組は本町だけのことではないかと思っています。そこには町を挙げて子どもの成長の節目を祝いたいという思いと、「きよらの郷づくりは人づくりから」という本町の教育にかける熱を感じます。

当日のことについては、二年生の学級通信に詳しく記載されていますが、心に残る立派な式となりました。私自身も会場後方で参加させてもらいましたが、生徒全員がきちんとしたたたずまいで参加している後姿に成長を感じましたし、代表生徒のお礼の言葉や決意表明はもちろんのこと、一人ひとりの礼の姿にも品格を感じました。挨拶や礼は本校生徒が日常生活で心がけてくれていることであり、本校職員が重点を置いて指導していることですが、こういう外に出た場面でみられることを嬉しく思います。なぜならばこの姿が、これから本校生徒がどの道に進んだとしても本人を支えてくれる何よりの力になるはずだからです。

こういう生徒の姿を職員だけでみるのはもったいないと思っていたのですが、この日の様子は「みなみチャンネル」はもちろんのこと、RKK、KKT、KAB でも取りあげていただきましたし、１３日付け熊日新聞にも掲載いただきました。時間的に難しかったかもしれませんが、ご覧いただけましたでしょうか。

髙橋町長が挨拶の中でおっしゃった「感謝の心と挑戦する気概を大切にしてほしい」という願いと、本校卒業生の梶原麻由さんが示してくださった「笑顔と元気」を心に刻み、次へのスタートとなる立志式を終えることが出来ました。

道を拓く

【 増永教頭との面接練習の様子 】

右の写真は、入試に備えた面接練習の様子です。この時期、学校では昼休みや放課後の時間をつかって、私や教頭、一年部主任の田中教諭、二年部主任の古庄亮教諭、三年部の杉本教諭、堀田教諭の６人がフル回転で指導にあたっています。もちろんこの６人以外にも、多くの教諭が様々な機会に何らかのアドバイスをしながら関わっています。

ほとんどの生徒が人生初の面接に向けて緊張の様子ですが、回を重ねる度に成長した姿を見せてくれます。この練習は今回の高校入試に向けてのことではあっても、三年後の大学入試や就職試験にも必ずつながっていきます。

目の前のことはもちろん、先を見据えて今できることを一つずつ一つずつ積み上げていく所存ですが、そうやって生徒のこれからに関わる機会であるからこそ、何よりも責任を感じています。そして同時にやりがいも感じています。

三年生のご家庭の皆さんで、面接を控えている受験生をお持ちのご家庭は、ぜひ１５歳の今の様子を「面接」してあげてください。それはご家族にとっても記憶に残る機会になるはずです。

また、近々、本校では一・二年生の三者面談も実施させていただきます。一・二年生の段階での三者面談は他校ではあまり取り組んでいないことなのですが、三年間という限られた中学校生活を有効に過ごすためにも、将来に向けた今の生活、学習への取組について見つめることは意義のあることです。この機会に、様々な思いも聞かせていただけるとありがたいです。ご多用の時節柄ではありますがどうぞよろしくお願いいたします。